

新しい授業づくりの文化をつくる 「吹田の授業づくり Update プラン」 校内研究活性化プラン

令和7年11月12日実施 Update プラン通信 第15号 中外 教材研究会

中外教材研究会 11月12日(水) 単元名:Unit9 冬休みの出来事を伝え合おう

「吹田の授業づくり Update プラン」校内研究活性化プランでは、教材研究会と授業研究会を1セットとして実施しています。今回は中学校外国語科の教材研究会を行いました。授業者より、生徒が相手意識・目的意識を持って言語活動に取り組むことが出来るよう、思考ツールなどを活用して自身の思考を整理し、伝え合うことにつなげていくという提案でした。直山先生より、授業を構想する上で子どもたちが考え、チャレンジできる工夫を行うとともに、子どもたちが形を知るだけでとどまらず、使えるようにしていくことの重要性とその方法について実践を交えてご指導いただきました。この学びを基に、1月22日(木)の授業研究会へ向けて、さらなる授業改善に挑みます。

—講座の目的—

- ①未知の問題場面に出会っても、解決に向けて行動できる汎用的な力(資質・能力)を子供たちに育むため、学習指導要領に基づいた授業づくりについて実践を通して主体的に学ぶ。
- ②教師同士のネットワークを構築し、講座での学びを吹田市内で広げるとともに、自校でのOJTに生かすことにより、学習指導要領に基づいた授業づくりの文化を築く。

—講座の目標—

吹田市の全小中学校が学習指導要領に基づいた授業づくりに取り組む。

授業づくりのプロセス

単元を創る

- ・育成すべき資質・能力を明確にする
- ・見方・考え方の成長をイメージする

学習指導要領に基づいて

- ・目指すゴールに対応した問い
- ・教科ならではの学習過程(プロセス)
- ・見方・考え方を伸長させる明示的指導

本時を創る

授業づくりにおいて大切にしたいこと

子供が切実性・必然性のある問いを持つ

教師が学習過程(プロセス)も能力であると捉える

子供が自分自身の成長を実感する

授業者の提案

Why なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

【知識及び技能】

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の動きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力・判断力・表現力】

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

What 何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

【本単元で学ぶ見方・考え方】

外国語を使って、冬休みの出来事を社会や世界、他者との関わりに着目して理解し、情報を整理しながら聞き手を意識して自らの考えを相手に伝える。

【本単元で学ぶ学習過程】

目指す子供の具体的な姿より・・・

≪目的≫ 冬休みの出来事について知ってもらうため

≪場面≫ カナダと日本の冬休みの過ごし方の違いを知りたいAETに伝える

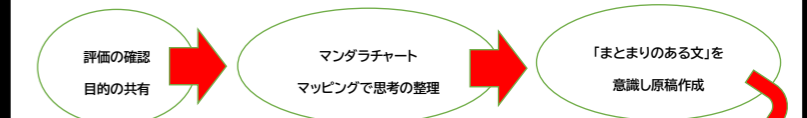
≪状況≫ 冬休みの出来事

≪目的≫ ≪場面≫ ≪状況≫ を子どもたち自身が考えることができるよう、相手意識と目的意識を持って言語活動に取り組ませていく。

How どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

冬休みの過ごし方に関して、5文程度でまとめる。



自身が作成した原稿を伝え合う。「質問」することを大切にする

時	学習活動	見方・考え方を働かせている子供の姿
1	単元目標の確認 形容詞・過去形	単元のゴールを知り、何のために活動していくのかを知る。カナダの中学生の冬休みの過ごし方を知る。冬休みの出来事伝えるに必要な形容詞や過去形の表現を復習する。
2	モデル文確認 原稿例確認	モデルスピーチを読んで、構成や表現の工夫を学ぶ。
3	(本時)ペア練習 原稿完成	ペアで冬休みの出来事について伝え合い、互いに質問をする。質問された内容を原稿に追加し、自然な英文を完成させる。
4	グループ練習	グループで発表し合い、相手意識をもってパフォーマンステストの練習をする。
5	パフォーマンステスト①	相手意識をもって表情やジェスチャー等工夫しながら、AETに冬休みの出来事について伝える。
6	パフォーマンステスト②	

【単元終了時の目指す子供の具体的な姿】

- ・カナダと日本の中学生の冬休みの過ごし方の違いを知ろうとしている姿。
- ・AETに自身の冬休みの過ごし方について知ってもらうために、情報を整理し、自らの考えや気持ちを英語で伝えることができる。

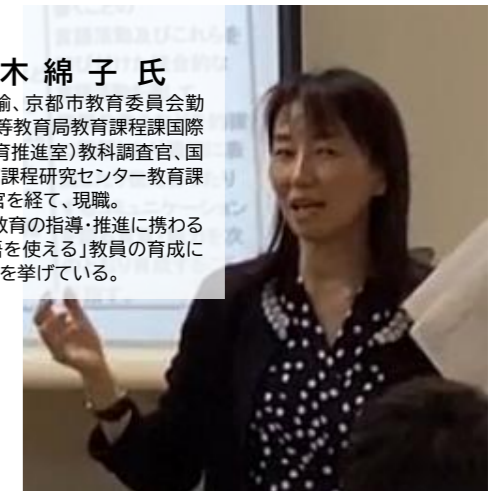
本時の目標	
冬休みの出来事についてペアで伝え合い、まとまりのある英文を完成させよう。	
働かせたい見方・考え方	
既習の語彙や文法を活用し、分かりやすく自分の考えを表現する。相手に伝えるように話す工夫(語彙・発音・表情)を意識する。他者からの質問に答え、原稿を完成させる。	

学習過程	導入		アウトプット①	アウトプット②	アウトプット③	まとめ
子供の問い	「今日の目標は？どんなことをするんだろう。」	「どうすれば相手に伝えるように話せるんだろう。」	「いつどこで誰と行ったのか等を聞いてみたいんだ。」 「他にどんな質問ができるだろう。」	「あのときどんな気持ちだっただろう。」 「誰と行ったのか伝えよう。」	「質問された内容を元の原稿に付け足そう。」 「原稿を完成させよう。」	「どうやってまとまりのある英文で、自分のことを相手に伝えられるのか。」
本時の学習活動・内容	帯活動 本時の目標確認	原稿をもとに各自で音読練習をする。(イントネーション・発音)	質問例を全体で確認し、発音練習をしておく。	質問された内容に関して、自分の考えや気持ちを伝える。	ペアで伝え合った内容を、修正前の原稿に付け加えて、まとまりのある英文を書く。	修正前と修正後の原稿を振り返り、全体に共有する。
見方・考え方	目的意識を持って活動に取り組めるよう、活動の流れと目的の共有をする。	聞き手の立場になって考える。(伝わる話し方を意識)	相手に伝えるように話す。(発音を丁寧に)	質問された内容に過する返答をする。気持ちや理由等を相手に伝えようとする。	伝えたいことが自然に繋がっているかを考える。 聞き手のことを考える。	自分の成長を振り返る。(次につなげる意識)
指導上の留意点(●)	ペア同士での温かい聞き方・リアクションの仕方を事前に確認しておく。(●)					
●	相手意識をもった話すスピードや声の大きさ、アイコンタクトなどにも指導する。(●)					
●	ペアで協力してより良い原稿になるよう、互いに関わって質問ができるようなワークシートを配布する。(●)					
★	形容詞や過去形を適切に使うことができる。(★)					
★	相手意識をもった話し方で伝えようとしている。(★)					
★	英語を使って表現・やり取りしようとする姿勢がある。(★)					

講師
関西外国語大学
教授

直山 木綿子氏

京都市立中学校教諭、京都市教育委員会勤務。文部科学省初等中等教育局教育課程課国際教育課(後の外国語教育推進室)教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官(後に)視学官を経て、現職。小学校・中学校の英語教育の指導・推進に携わるとともに、現在は「英語を使える」教員の育成に向け、教壇に立ち、成果を挙げている。



授業者が提案した授業展開についても指導助言いただきましたが、主に11月12日(水)に公開授業として行った授業内容をもとにした指導助言となっています。

1. 授業の目的

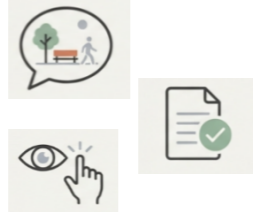
○授業の目的: 現在進行形を使った「自然なやり取り」をする

↓では、Q: 授業者の考える自然なやり取りとは？

A: 会話をしていて違和感がない。スムーズなやり取り。

≪3つのポイント≫

- ・現在進行形を使うに適切な場面であったか
- ・正しく英語を使っているか
- ・アイコンタクトやジェスチャーを使っているか



授業の目的である、「自然なやり取りになっているかどうか」を見る際のポイントとして具体的にこの3つを示している

授業者として、「自然なやり取り」という言葉の具体の要素がこの3つだと示しているということ

2. やり取りの文脈として

例1) A: What are you doing?

B: I'm looking for mother.

A: Where is your mother?

「探してる」って言うのに「どこにいるの？」っておかしくないか...

例2) A: What are you doing?

B: I'm studying English. How about you?

A: I'm playing badminton.

B: Where are you playing badminton?

A: In the gym.

勉強している前でバドミントンをしている...



英語の「形」は正しくても、意味が通じていない。あり得ない状況が生まれてしまっている。

文法は正しくても、文脈が繋がっていないという課題

しかし

子供たちが振り返る内容として...

「アイコンタクトができていた」「ジェスチャーができていた」

本当にそれでよいのだろうか？ 現在進行形が適切に使えていないのではないかな？

3. 問い直す要素として...

○教師によるインプット自体が「自然」だったか...

子供たちが見る教師による手本が、文脈から切り離されたものとなっていないか...

例1) 授業参観をしている先生に...

Q: What are you doing?

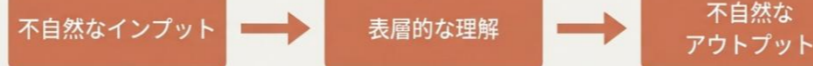
A: I'm reading a book.

授業参観中に本を読むだろうか...

例2) 突然「絵」を描いて...

A: I'm drawing a picture.

突然描く。コミュニケーションの意図があったのだろうか...



「今やっていること」を説明するだけの表現として現在進行形を教えてしまい、本来の「使い方」を伝えられていないのではないかな

○学習の焦点をどこに置いていたか...

Q: 現在進行形って何？ A: be 動詞+動詞に ing をつける

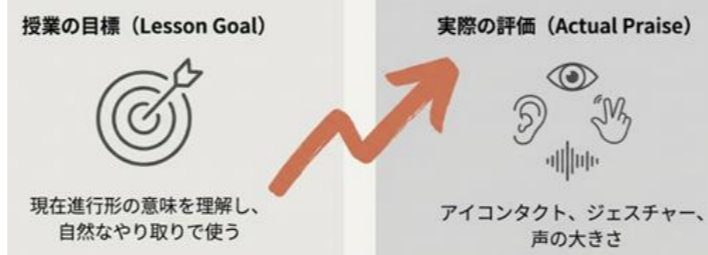
↓

「今まさにやっていること」という現在進行形の核心となる意見もでるだろうが、形に焦点が行き過ぎると...「使い方」の話になっていかない

表現のフォームは頭に残るかもしれないけれど、使えるようになっていかない



○授業の目標と行われる評価がずれていないかどうか...



授業の目的である「現在進行形を使って自然なやり取りをする」という内容に沿って、評価ができていたかどうかを意識しておく必要がある。

そのためには、自然なやり取り・自然な会話ってどんなことなのかを子供たちとともに共有し、理解していないといけない

目標のイメージを教師も子供もお互いに共有しておくことが大切

4. 大切にしてほしいこと

- 目標に沿った言語活動が行われているか
- 子どもがした活動を、目標に沿って教師が価値づけていたか

これは、どの教科でも一緒。“目標”があって、この目標が達成できる“活動”があって、その活動の中で目標が達成できたかどうかを“子供が振り返る”そして、教師が“価値づける”ことが大切

≪振り返り≫子どもたちが、「どんな力がついたかな」「目標に達しなかったのは何が足らなかったのだろうか」と考える

≪自己調整≫子どもたちが、「目標を達成するために、何をがんばってあげればいいのかな」と考える

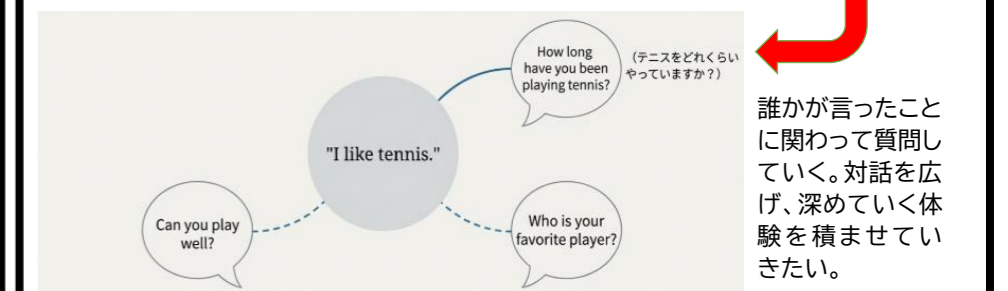


●「関わって質問する」体験をデザインする

単に「質問しよう」では不十分。子どもは「いつ」「どのように」質問すべきかわからない。

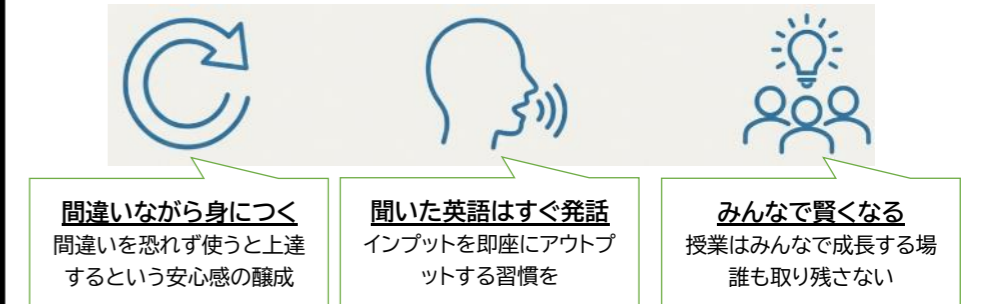


相手が言ったことに関わって質問するという体験をさせていくことで、“やり取り”を学んでいく。



誰かが言ったことに関わって質問していく。対話を広げ、深めていく体験を積み重ねていきたい。

5. さいごに...英語は、そして授業とは...



受講者の感想 ●教科は違うが、自教科に活かされる新たな視点であり学びとなった。 ●教師として大切な「誰一人取りこぼさない」等改めて認識することができた。 ●単元ごとの活動における「自然なやり取り」とは何かを再認識できました。